

山澤成康先生にインタビュー！

私たちはマネジメント学科助教授の山澤先生に「輝く女性」についてインタビューをしました！

経歴：京都大学経済学部卒業。

卒業後、日本経済新聞社入社。データバンク局（現電子メディア局）経済情報部や、編集局経済部で大蔵省担当記者、編集局速報部では経済官庁担当記者、スタンフォード大学客員研究員、日本経済研究センターなど多くの部署で活躍する。

現在、跡見学園女子大学マネジメント学部助教授、日本経済研究センター副主任研究員を勤めている。



Q：輝く女性と聞いて何をイメージしますか？

イメージとして2つあります。1つは太陽のように「相手に対して影響力を持つ人」。もう一方のイメージは星のように「人知れず輝いている人」です。「相手に対する影響力を持つ人」とは、自然に相手が従う姿勢や雰囲気を持つ、いわゆるソフトパワーを持っているという意味で、相手に力を与えられるような人は輝いている女性だと思います。そして「人知れず輝いている人」とは、自分のやりたいことをやっている人、自分の興味を持ったことを一生懸命やっている人をイメージします。

Q：社会の中で女性が活躍するためには？

社会で男性と同じ基準で頑張っていくことよりも、「女性らしさを大切にすること」が重要だと思います。少子化により人口減少が今後も続くと言われる社会では、女性の労働力も必要となります。現在は横並びの社会で、どちらが多く残業をするかというような我慢比べの競争が依然ありますが、今後は他人と違うものを作る、違う能力を発揮することを目標にするのが重要だと思います。

Q：教員のやりがいは何ですか？

大学の教員がする事は大きく分けて3つあります。1つは研究、そして2つ目は教育、3つ目は大学行政です。教員の良い所は自分の好きな様に時間の管理ができ、いつ何をするか自分で決められることです。3つのうち教育についてはこの大学に来て初めてで大変ですが、教えてきたゼミの学生が次々内定をもらってきた時は嬉しかったです。

Q：これからの社会が求めるものとは？

一番求められることは「想像力」だと思います。現在は価値観が多様になり、大学卒業後に企業を立ち上げる人やフリーターになる人、海外留学をする人など多種多様です。そのような中で自分と同じような価値観を持つ人とはコミュニケーションが取れるが、自分と価値観の異なる人とはコミュニケーションが取れないという人が増えています。この理由の1つは想像力が足りないためではないかと思います。相手の立場になって考えるためには想像力が必要ですが、足りない人が多い気がします。

そしてもう一つ、「謙虚な気持ち」も大切です。大学で学んだことは社会に出て学ぶことに比べればまだまだ狭く、浅いです。就職はゴールではなくスタートです。自分は何も知らないということを自覚する必要があると思います。

インタビューを終えて…

これからの社会が求めるものとはという質問の中で「教養」が必要だという話もされました。「教養」を身につけるためにお勧めする方法を教えてくださいました。それは「本を読む」、「色々な人と会って話す」という方法です。この方法の中で大切なことは分野や人のタイプを限らないという点です。話を聞きながらなるほど、とおもわず思いました。山澤先生ありがとうございました。

(今尾・白浜)

跡見松下村塾 Bright vol.3

マネジメント学部3年生からの自主ゼミである芝原先生の率いる「松下村塾」では、私たちゼミ生が、毎月新聞を発行することになりました！内容は、就活を意識した3年生の興味がある企業のことや、最近のニュース、また跡見生の注目していることなどをとりあげていきたいと思えます。

「松下村塾」で学び、活躍した人物について

伊藤博文 (1841~1909)

1857年(安政4年)松下村塾に入り、吉田松陰の教えを受ける。その後、高杉晋作や井上馨、山県有朋らと討幕運動に奔走する。1868年(慶応4年)外国事務掛となり同年に兵庫県知事となる。明治維新後は新政府の要職に任ぜられ、1871年(明治4年)には岩倉使節団に副使として参加。1885年(明治18年)に初代内閣総理大臣となる。そして1889年(明治22年)に発布された大日本帝国憲法制定の中心人物として活躍する。しかし、そのような中で1909年(明治42年)満州へと出発し、ハルビン駅で暗殺された。



木戸孝允 (桂小五郎) (1833~1877)

1849年(嘉永2年)松下村塾に入門。その後、江戸に遊学し、道場に入り塾頭になる。そしてさらに造船術を学び、蘭学をも修めた。1860年(文久元年)には尊王攘夷運動に参加。1865年(慶応元年)長州藩主から木戸の姓をもらい木戸貫治と改名し、討幕抗戦の藩論決定に活躍。王政復古後、五箇条誓文の草案を起草し、新政府の高官となる。同年、封建領主制の改革について説き、この内容は1869年(明治2年)に版籍奉還として実現する。1870年(明治3年)、参議院に就任。翌年廃藩置県断行に対しても重責を担い、その後は文部卿を兼任、征台の役(台湾出兵)に反対し参議院を辞め、宮内省出仕となり明治天皇の側近、1867年(明治9年)に内閣顧問となるなど日本の発展に大きく貢献した人物の一人である。

参考資料・写真

- <http://www.kvision.ne.jp/~momorx/nen-p.html>
- <http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/fishin/jinmei/Kido.html>
- <http://www.l3.ocn.ne.jp/~dawn/Kidocover.html>